

2021 年度会長特別委員会 「コロナ後の”土木”のビッグピクチャー」特別委員会(第2回) 議事要旨

■日時:2022(令和4)年1月6日(木)10時~12時

■形式:オンライン(Zoom)

■出席者:谷口委員長、屋井副委員長、石田副委員長、塚田幹事長

上田委員、太田委員(代理出席:加藤)、鹿野委員、川崎委員、楠見委員、高橋(秀)委員、塚原委員、兵藤委員、堀田委員、水谷委員木俣幹事、白水幹事、田名部幹事、中島幹事
オブザーバー出席)

将来インフラ WG

小池主査、今井委員、大西委員、楠田委員、杉本委員、中村委員、日比野委員、山田委員
各支部 WG

1. 会長挨拶

(略)

2. 前回議事録の確認(事務局)

(略)

3. 各 WG の状況

3.1 支部WG

(略)

3.2 noteWG

(略)

3.3 将来 WG の議論状況

(略)

4. 将来インフラ WG の議論状況

(谷口会長)

- これまでの検討・議論の方向性については基本的に違和感はない。
- 表現については今後丁寧な検討が必要。例えば、「自助・共助・公助」についても事柄によると思われる。「間違った民主主義」も「行き過ぎた民主主義」など。

(石田副委員長)

- BPという言葉の中身は多様、ピクチャーなので受け手からすると静的な感じがする。
- 日本人は戦略という言葉は好きだが、その下部の戦術、兵站や全体統括マネジメントが足りていない。今回のBPでは戦術、兵站、全体統括マネジメントを強くアピールすべき。小池先生の将来インフラWGは更に頑張っていたきたい。

(小池委員)

- 会長のおっしゃる通り表現は丁寧にする。

- 石田先生のご指摘もその通りであり、土木で出来ることはここだ、ビッグピクチャーを達成するためにどうするか、クリティカルなものは何か、というダイナミズムを書いていきたい。

(石田副委員長)

- 日建連はカーボンニュートラルについて、当初スコープ1にあたる主として建設機械からの発生(40万トン)の削減を掲げていたが、年末にスコープ1だけでなく、スコープ3にあたる上流側・下流側の削減についても掲げることに舵を切った。国土交通関係の排出量は7億トンだが、数値目標は数百万トン。この関係(ギャップ)が問われていると思う。初代古市会長が「工学の範囲を超えて社会に広がるのだ」という命題を唱えた。それに対してどれだけ説得力のある発言をするのかということが問われている。「ビッグピクチャー」という言葉が重要。
- そのためには連携、協働が重要であり、マネジメント論も重要。

(屋井副委員長)

- 全体については共感。あとは上手くはめ込んでどう作るか。全体のフレームは100周年で作っているのだから、ある程度それを見ながら作るのが楽かも。
- 小池先生の説明に「機会の平等」という言葉が出てきたが、古い人から、アメリカは機会の平等をずっとやってきて失敗したという古いタイプの反応があるかも知れないことに留意が必要かも。
- 「行き過ぎた民主主義」についてもこれまでにいろいろ研究されて来たのでそのレビューも必要かも。世界の方向性としては自律性や参加を強化しようという流れ。共助。

(兵藤委員)

- 北海道支部の成果が印象的。一方、これら支部の成果をどうやってBPに取り込んでいくのか。支部単位で議論すると地図が出てきてそこに書き込むことになるが、地図から離れた無戸籍の街に必要なインフラを書き込むようなものも出てきて欲しい。また支部間の整合も課題では。

(塚田幹事)

- 支部間の整合については、今回はハードルが高いと認識している。

(中村委員)

- 中部支部で非常に苦勞している。学生がビッグピクチャーの提案を考えており、1月8日の交流会で発表予定。日本人は兵站が苦手。兵(この場合はビッグピクチャーを描く学生)をどうやって作るかが重要。教育の問題。継続的な話であり、最後の落としどころが重要。

(日比野委員)

- 100周年の時に過去のビジョンを整理したが、多くはアクションプランがない。BPではここをしっかりとやりたい。
- 人と国土のバランスが重要。今は人の選択の結果として一極集中になった。国土目線だけでなく、人目線とのバランスが重要。

(水谷委員)

- 内容について共感できるところばかり。一方、国民目線で日本全国どこでも生活できるためには、どこにでも雇用があるということだと思う。

(山田(菊)委員)

- 学会誌6月号で座談会が企画されており、本日のキーワードも反映したい。
- 現場としては、上位のプランと兵站を別個に作ってきたという反省がある。

5. BP 骨子の審議

【質疑】

(屋井副委員長)

- レポートと提言という構成はOK。それぞれの構成もよくできている。あとはロジック、国民や外の人が自然体で考えられるところがもう1つ必要。土木の人がインフラを作りたいために書いたのだろうと思われぬように。

(谷口会長)

- レポートと提言はOK。
- 巻頭言の執筆が会長となっているが、2章以降との整合を考えWGで素案を検討した方がいい。
- 戦略的であることは重要。事柄の優先順位や手順、道行きをちゃんと示すことが重要。
- 地図に落とすことにより具体的なプロジェクトをイメージされるかも知れないが、例えば流域治水や道の駅と地域の連携など、制度や枠組、施策提案も重要。河川工学ではなく河川学、道の駅もその1つで、沿道も合わせて考えるなど。自助・共助・公助とも関係する。

(楠見委員)

- 8割がた共感する。一方、具体的に日本の国力にどうつなげていくのかについてももう少しどこかに入れるべき。
- カーボンニュートラルの話は世界のところでドンドン入っていく。これに加えてエネルギー政策と国土、社会経済との結びつきを書くべきかもしれない。土木の範囲外と言われたらそうかもしれないが、エネルギーについてどう考えるかについても議論して欲しい。

(塚原委員)

- 内容的には詰まってきたので、しっかり書き込んでいく段階ではないか。
- 最終的には社会をどう動かしていくべきかを考えていかないといけない。そのためには国民の理解が大事。社会像や物語を如何にニュートラルに国民目線で書けるかが重要。土木目線はダメ。国土像に入る前にちゃんと書くべき。望ましい将来をサラッと書くのではなく危機感を示すべき。望ましくない将来を示すなど、書くときに気を付けるべき。

(五道氏：内閣官房国土強靱化推進室)

- 元々は単年度予算であったが、国土強靱化については中長期的枠組が出来てきた。5カ年加速化対策の次の計画が必要だが、計画ごとに刻んでいくためには「そこまで税金を使ってもよい」となるような将来像への共感が重要であろう。

6. 自由討議

(屋井副委員長)

- 提言内容が重要。レポートづくりよりメッセージ性が大事。
- 国の動き(デジタル田園都市構想、国土形成計画)。デジタル田園都市構想では大学を中心に地域のイノベーションというロジックが垣間見えるが、ギャップを感じる。ステークホルダーの役割が一層高まるような書きぶりになっている。「協働や協力が無いと出来ませんよ」という書きぶり。これにどれほど共感できるか、全くあり得ないと思う。国土形成計画が中に浮いている。一事が万事、土木学会に意見を求められていない。
- 100周年宣言の「持続可能な社会の礎を作る」は変わらないと思う。土木の貢献と責任。安全、環境、活力、生活。Well-being から co-well-being、human-centric から
- 成長を前提とするか、分配にどこまでコミットするか、が論点の1つではないか。新しい資本主義・デジタル田園都市構想に抜けた視点、持続可能な社会の礎、安全、環境、活力、生活、国民・市民参加の視点が必要。持続性と人間の成長を目指す社会。

(小池委員)

- 国民へのわかりやすさについては、レポートとしてまとめる段階の話とイラスト・マンガを作る段階の話で切り割られるものを整理して議論したい。

(川崎委員)

- 本日の説明で BP のイメージが出来た。
- インフラを作りがっている人が書いたと思われなくようにすることが必要。国民、特に若者の心を掴むが重要。持続可能な社会の礎という捉え方は重要。災害に関する部分が弱い。日本に住むということは災害と災害の間に生きていることを伝えるべき。100年スパンで見れば日本中どこでも災害が起こっており、それに備えないといけなくという根本を分かちてもらうことが重要。インフラメンテナンスへの関心が低い。国民に課題があることを知ってもらったり、長寿命化や予防保全などへの取り組みへ共感してもらったりすることが重要。どう書き込むかについては、専門家だけでなく国民に分かちてもらうことが必要。上水道はもう出来ているから結構ですよというアンケート結果が心配。

(大西委員)

- 災害の問題は議論して頭出ししておくべき。

(石田副委員長)

- 是非ダイナミックな印象を与えるものにしてほしい。
- 人口減少を大前提としているが果たしてそれでいいのか。20年より先は我々の力で変えられるのではない。1970年代の初めまではフランスも出生率が下がっていたが今は2近くまでいっている。パリは人口が減少し郊外部に人口が分散している。人口減るイコールもうダメ、ということ打破してほしい。
- 4章に挙げられている負担について、どう考えるかが大事。税や料金だけでなく、時間負担や命での負担もある。負担という言葉を恐れずに使って欲しい。
- 3章に挙げられている全国あちこちの五重塔について、チャレンジングだと思う。地方自治体のあり方について、これまで合併で規模を大きくすることで進んできた。でもKPIが明らかにおかしい。新しい切り口から都市圏のあり方について提言して欲しい。
- 出生率について結婚すると2近くに行く。結婚できないことが問題。

7.とりまとめに向けての体制と今後のスケジュール

(谷口会長)

- 100周年事業とのつながりを整理すべき。諸先輩の積み上げを受けてとずっと言っている。
- ジャレド・ダイヤモンドが「危機と人類」で危機は国民の合意において重要と書いている。
- 絵に描いた餅にならないためには政府を動かすような提言にしたい。
- 防災・減災、維持管理更新はかなり国民に Accept されているがそれだけでは守り。今後の成長について書くのがビッグピクチャーの肝の1つ。
- 限られた時間の中でどこまで書けるかということもあるので、今後の課題をキッチリ書くのと、数年間に1回BPを作るということにつながればいいと思う。

(小池委員)

- 過去の国土計画の対比。4全総までは成長する日本に対して足りないインフラをどうするか。5全総以降が現状維持型。その結果、成長していない。経済が先で土木が後の計画で成長しなくなった。「土木が主導で社会がどうなるか」へのシフトを最初に言うておくことが重要ではないか。今までは需要追従型だったが土木と経済は補完的な関係。歴史を含めてそれをしっかり説明することで理解が進むのかなと思う。

(屋井副委員長)

- 「脱成長」が言われており、決して GDP 一辺倒ではないのでは。土木が経済を作っていくロジックは懸念がある。様々な価値があるという認識・スタンス。経済成長のために土木があるということで国民に理解を求めるのは懸念。確かに雇用がないと、というのもあるが。

(石田副委員長)

- GDP 以外というのは分からないことはないけど、現状を見たら「正直もっと GDP 欲しいよね」とも思う。一方、質的な成長、昔ながらのものを大事にするという成長もある。いろいろな成長のパターンがある。成長自体は大事だと思う。

(谷口会長)

- 成長は重要である。ダメなのは成長主義。
- 正当なしかるべき役割を果たすべき。真の長期計画が必要というロジックで書くべきでは。しっかりとした額の裏付けのある計画でないと国民も企業も計画できない。

(石田副委員長)

- デジタル田園都市構想についてどう考えるか。デジタル日本 2020 などを見ると DX の人たちが「顧客満足を高めるための話」と言い切っている。リアルのことを書いていない。大平総理のオリジナルはリアルの話。そこにどう切り込むのか。古くさいトンカチ集団が。是非魂を入れる議論を。

(上田委員)

- BP の始まりが広く市民から意見を聞いて、という話になっていたと思うが今日の目次からそれが読み取れない。どこかの節の執筆者が市民の人になるぐらいがあってもいいのではないか。
- 海外に住んでいないと分からないこともある。本来の GDP にすべき。それが過去の高度成長とは違うことが国内だけを見ていると分からないのでは。

以上